The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	重文民家の意匠
Author(s)	吉村, 堯
Citation	デザイン理論. 1993, 32, p. 90-91
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52951
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

重文民家の意匠

吉村　堯

「民家の造形・意匠」の魅力

現在重要文化財指定民家の大半は凍結保存の状態におかれ，博物館的な存在としてのみ生き永らえている。それらは本来，生活直結の造形であり実用に徹した構築物であるが故に，時代を超越した機能的造形，自然素材を生かしたおおらかで無理のない構成，巧まざる装飾性等，造形意匠の根源に通じる諸要素を発現したのである。その幅広い造形的発想と簡潔な美意識は現代の造形感覚にも相通ずるところに民家の最大の魅力があると言えよう。時代の推移・生活様式の変化にも柔軟に対応できたことが民家を住居として永らく存続させ，今日その価値を再評価される結果を生んだとも言えるが，この多面的な要素を持つ重文民家の造形意匠を，内なる者の視点から紹介して行きたい。

「民家」の概念

重要文化財に指定される民家は「伝統的手法によって建てられた庶民の家の中で建築として見応えのあるもの」に限られ，年代的には室町期から明治期に及んでいるが，中でも18世紀以降の江戸期建築が99％を占める程に多く，大庄屋・豪商・下級武士の住居，小規模な明治期の洋風住宅等も含まれている。ただ文化庁でも民家に関する明確な規定は現在のところ確立されておらず“便宜的区分”によっているようである。

「民家の価値」認識と「重要文化財指定民家」増加に至る経過――

最近では外国人の愛好家などミンカを崇敬の眼差しで見る人さえあると聞くが，ここに至る道程は長く険しかった。柳田国男等の「白茅会」の運動に始まって，今和次郎が各地の民家を採集記録した『日本の民家』が民俗・民芸等の研究者達の注目を集めた大正期以来，常に人文科学分野での研究が先行し，建築学・建築史の面からの研究は昭和20年代に入ってから漸く本格化したといわれる。昭和25年文化財保護法制定以前の国宝保存法による民家指定は僅か2件だった事実もそれを実証するかのようである。民家の指定が昭和40年代に急増した理由は，経済の高度成長・生活形態の激変に伴う古民家の急激な消滅傾向にあったとも聞くが，それは同時に民家の価値再発見の機運が熱したしるしでもあったろう。事実，昭和40年代半ばから50年代にかけて“静かなる民家ブーム”の時期があった。今日，国指定重要民家は数百棟，所有者は個人だけで約二百名を数える。それらは各時代や地域の代表的民家として高い評価を与えられた存在であるから，意匠美を主題とする考察対象としては最適のものとも考えられる。

ここではまず，1.外部意匠（屋根構え，壁面構成，細部特徴）2.内部意匠（土間空間，居室・客間空間間，細部特徴）3.その他意匠（什器・服飾）に分類し，それらの代表的なものを抽出し，各々の個性的意匠について，比較・対照しつつ紹介する。

1. 外部意匠

A《屋根構え》

切 妻 系――茅葺（高塀造）・榑葺（本棟造）瓦葺（殆ど町家，土蔵造・宿場建築等）線的構成の意匠美・簡潔明快な緊張感

入母屋系――茅葺（農家）独立棟・分棟・連棟・変化型／妻入・平入
瓦葺（農家）独立棟・連棟／（町家）独立棟・連棟・変化型／面的構成の意匠美・重厚な安定感，多角的発展性

B《壁面構成》

真 壁 系――切妻系に多く軽快でリズミカル，抽象構成的壁面分割の意匠美

大 壁 系――入母屋に多く重厚，生子壁系の意匠には地方的特色が加わる

板 壁 系――切妻・卯建構造に多く機能的な工夫や地方的特色が見られる

C《そ の 他》

構　　造――門扉の機能性，石畳の配置，抽象構成的棟飾・屋根置石の変化等に無装飾の装飾，的な工夫が見られる

2. 内部意匠

A《土間空間》

装 飾 性――簀子天井・壁面梯子・天井裏締縄などの抽象的紋様構成

機 能 性――直線系・生地／扇形・漆喰／半円形・漆喰，等形態と塗装の相違による竈意匠の変化と生活に即した機能的な造形意匠

B《居室空間》

構　　造――全部板間／全部丸竹床／板間と畳間／等の実用的構成と意匠

設　　備――囲炉裏・火鉢／等地域的特色に応じた実用的構成と意匠

C《接客空間》

数 寄 屋――（農家）室内構成に質素でかつおおらかな意匠の特色
（町屋）洗練された感覚の肌目細かく凝った意匠

3. その他の意匠

《什器服飾》

民 具 系――防火用水桶（紙張り籠マーク入），帳場机（袖衝立付，抽出し付），火鉢，塵取り等，手作り什器類の代表的なものの素朴な意匠

服 飾 系――鼈甲櫛（表裏に玳瑁と蛇篭の意匠）・笄・携帯用化粧用具入れ・袋物（ジャワ更紗），小袖（寛文期）等，近世服飾系統デザインの斬新簡潔な近代性を示す未公開資料の紹介

ま と め

重文民家の魅力には，復原修理されてオリジナル・デザインが再現した結果による，端的な建築意匠の見事さが発する端的なものと，長い年月の経過や幾世代にも亙る手入れが作り上げた深い味わいに発するものとの二つがあるといえよう。一般に建築専門家は前者をより高く評価し，所有者は後者に断ち切り難い深い愛着を抱く。双方のいずれにも偏らずに造形意匠の面からのみ重文民家を捉える目を持とうとすることは，意外に難しいが，重文民家の今後を考える上でこれは肝心な布石の一つだと思われる。

よしむら・たかし　大阪芸術大学
1992.7.25　第132回研究例会